

1 本園の教育目標

教育理念 「キリスト教保育に基づき、明るく素直な生活態度、逞しい身体、豊かな情操を育むことを保育理念とする。」

- ・ 神を賛美し、つねに感謝する子ども
- ・ 自ら考え想像し、仲間と共に遊びや生活を作り出す子ども
- ・ 異年齢児と親しく関わり、育ち合う子ども
- ・ 豊かな自然と関わる創造的な子ども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 戸山幼稚園の特徴である“自然環境”を活かし、子どもたちが自然物に興味を持ったり、調べたりする経験を増やす。
- (2) 季節の移り変わりを感じ、四季折々の自然体験を通して、食に興味を持ち喜んで味わう。
- (3) 様々な音楽や楽器に触れ、のびのびと表現する喜びを味わう。
- (4) 戸山幼稚園の保育を一貫して守れるよう、研修時間を増やし保育者間の連携を強めていく。

3 評価項目の達成および取り組み状況

*評価 A=十分に成果があった B=成果があった C=成果なし

評価項目	取り組み内容	自己評価	評価
保育について (4)	・遊びの中で、子どもたちの主体性を育み、自己充実できる保育計画を立てる。	・常に保育者間での会議や打ち合わせを心掛け、計画を見直す機会や互いのアドバイスを取り入れ合う場を大切にしてきた。 ・子どもたちの姿から必要な環境や援助について検討し、またそれらを共有できるように見える化している。 ・子どもの発達特性への理解を深めて日々保育が出来るように、定期的に研修に参加し質の向上に努めることが出来た。	A
音楽表現について (3)	・年3回の音楽的イベント ・楽器購入	・父母の会主催行事で、本物の音楽に触れることを大切にし、子どもたちの情操を豊かに出来るように心がけた。 ・楽器の種類を増やし、実際に鳴らすことや奏でることを楽しめるように配慮することが出来た。 ・こうした積み重ねにより、手作り楽器を楽しんだり、子どもたちが音楽会を計画したりして、達成感を味わった。	A
食育について (2)	・夏野菜について知り、自分の手で育て収穫する。 ・実際に夏季保育で味わう。 ・園の畑を利用して栽培する楽しさを味わう。	・秋の焼き芋パーティーを見越して、1学期からさつまいも栽培を行った。年少児も自分の手で畑に苗を植えることが出来、収穫を楽しみに待つことが出来た。 ・年長児の夏季お泊り保育に合わせて、夏野菜の収穫が出来るよう保育計画を立てる。子の知的好奇心が高められるよう、困ったことは自分たちで考えて解決するなど配慮した。実際にカラス被害や、暑すぎる気温の影響により収穫が叶わないこともあったが、自然の力に触れる学びを得たりした。 ・絵を描きながら生長を見守り、日々友だちと大切に育てることで苦手な野菜に対する抵抗感を無くし、食した。	A

研修について (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実 ・園外研修の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少年教育研究所より、講師を迎えて園内研修の場を設けた。正職員や担任勢のみならず、保育補助職員も一緒に学びの場が作れたことで、園での方向性を固める機会となった。 ・園外研修での報告を担当勢で共有し合ったので、保育者全体の保育観も伸ばしてきたと考える。 	A
特別支援保育について (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区療育センターとの連携 ・民間療育との連携 ・園外研修への参加 ・保護者理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰に配慮児への関わりを持つのではなく、それぞれの個性として大切に育むことが出来るように保育者間での理解を深めている。 ・新宿区の療育施設との連携を深めることで専門家の意見を取り入れて、より最善の対応をしていけるように学びを深めた。 ・入園してから子の姿に悩む保護者も多くいるため、子の姿を共有することで安心感を持ってもらいながら、最適な対応と一緒に探せるように話をしている。 	A
地域環境について (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・園周辺の自然環境に触れる機会の保障 ・生き物の飼育 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれた園環境なので、子どもたちが自ら興味を持って手を伸ばせるように、四季折々の自然遊びを取り入れた。特に秋の焼き芋パーティーは、自分たちで落ち葉や木の枝を集めて手作りの焼き芋を味わう良い機会である。 ・2月には雪が降ったので、全員で雪の保育を楽しむことが出来、季節や天候に応じて保育内容を変えるのは良い努力だと考える。 ・昆虫が好きな園児の影響から、様々な生態を調べるようになり、カマキリなど飼育可能かどうかクラスでの検討。飼育する場合は、どのような配慮が必要なのかを子ども同士で刺激し合いながら体験を通して学んでいった。 	A
保護者との連携について (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会運営 ・行事の開催 ・園からの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度の役員との打ち合わせを設け、父母の会の率直な意見を貰えることで、日々改善しながら保育計画を全うしてきた。 ・今年度から人数制限のない観覧体制での行事に戻し、園の保育理解を促すことが出来た。また、初めて参観できた祖父母も多く、信頼していただける保護者が増えていると感じた。 ・しかしながら、参観のためには保護者の動線や座席確保が課題となったり、また下の兄弟たちを連れて参加することや、反対に預けるための手配に負担を感じる家庭もあったり、配慮点が大きく、連携をとることが難しい場面も多かった。 	B

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>子どもたちの表現力を伸ばすため、また主体的に活動を展開させられるように計画を行ったり、保育者として子どもを捉えたりして保育に臨むことが出来た。子どもを中心とした保育を心掛けることで、園に携わる職員の連携を強めることが出来ている。</p> <p>またそれらを保護者に共有したり、保護者からの意見をもらったりと、園の在り方を常に意識して、理解を深めていただけるよう配慮してきた。引き続き、理念を大切に守りながらも、園の需要を考えていくべきだと考える。</p>